

雨よけぶどう天敵製剤導入マニュアル (Ver.1)

2024年3月作成
東部農業事務所普及指導課

天敵製剤導入に資する実証による検証結果、及び情報収集によって得られたポイントをまとめた。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
天敵	ミヤコカブリダニが製剤から出て、ハダニ類を捕食するまでには時間がかかる	5月下～6月上旬 ミヤコカブリダニ放飼 天敵製剤は納品までに時間がかかる（おおよそ2週間）ため余裕を持って注文する		湿度を高く保つことで、ミヤコカブリダニが増えやすく、活動も活発になる 【天敵製剤設置のポイント】 ・ほ場に均等に設置 ・直射日光を避ける ・極度に乾燥する場所は避ける ・外れないように工夫する		 「ほ場で確認された土着天敵のハダニアザミウマの成虫（左）と幼虫（右）」		年間を通じて、土着天敵（生態系において自然に存在するハダニ類の天敵）と放飼天敵が生息しやすい環境づくりを心がける		ハダニ類の発生が無ければ天敵製剤を取り外す		
下草管理 <small>年間を通じて除草剤の使用は出来るだけ控える。</small>	「カタバミ」などの有用な下草は残して、その他は除草を行っても良い	 「カタバミ」	 カブリダニの餌になる「カタバミハダニ」	ハダニ類の発生ピークになる時期除草は必要最小限、適度な草丈に保つことを心がける		 「ナミハダニの被害葉（下草）」	 「ナミハダニの越冬態」	ハダニ類の発生量が落ち着いたことを確認して適切に除草を行う		 「雨水が入るところ（ビニールの間等）は生育が良い」	天敵温存のため、クローバーを播種する場合、ビニールを貼る前に余裕を持って行う	
ハダニ類の発生状況観察	天敵製剤の効果を十分に発揮するには、設置前のハダニ類発生が極力少ないことが望まれるため、天敵製剤設置前には余裕を持って確認を行う		 「ナミハダニ」		 「カンザワハダニ」	 「吸汁による葉の色抜け」	ルーベや虫めがねを用いて、1週間間隔を目安に葉裏を確認する 一定の場所に集中して発生することが多いため、発生場所を早期に掴む		 「毛じ下のカンザワハダニ」			 「毛じ下のカブリダニ類」
カブリダニ類の発生状況観察	←		 「カブリダニ類」		←		ルーベや虫めがねを用いて、1週間間隔を目安に葉裏を確認する ハダニ類が発生しているところによく観察される		ブドウの葉には品種によって「毛じ」が多く観察が難しいため注意深く観察する			
ダニ剤	天敵製剤の効果を十分に発揮させるために、天敵製剤設置前にハダニ類が観察された場合は、ダニ剤を散布してハダニ類の密度を極力下げておく		ハダニ類の発生状況観察の結果 ハダニ類の発生が大幅に増えている場合は、カブリダニ類への影響を考慮したダニ剤でレスキュー防除を実施する		←		レスキュー防除のタイミング、薬剤の選定は普及指導員に相談する		天敵に配慮した薬剤に変更することで、その他の虫害、病害が顕著になる可能性もあるため、十分に観察をする			
農薬全般	天敵放飼前にミヤコカブリダニに影響のある農薬を使用する場合は、影響日数を考慮した上で適切な時期に散布する		天敵放飼後は、基本的にカブリダニに影響の無い薬剤で防除する。 (殺菌剤での影響を及ぼす成分があるため注意が必要)		←		←		←			
その他			【ミヤコカブリダニ】 餌：ナミハダニ、カンザワハダニ、花粉等 捕食量：ナミハダニで7頭前後（条件により増減有） ナミハダニ卵で20卵前後（条件により増減有） 産卵数：40程度（条件により増減有） 高温に強く、乾燥に弱い（ハダニ類は乾燥に強い）		ミヤコバンカー（システムミヤコくん） 作物名：果樹類（施設栽培） 適用病害虫：ハダニ類 使用量：2～5パック/樹 使用時期：発生直前～発生初期 100パック/10aを目安に日を分けて設置 ※登録情報は令和6年4月1日現在の情報 農薬を使用する際は、農薬のラベルをよく確認し適切に使用すること。		←		天敵に配慮した防除暦に変更する場合は、例年の防除暦を基に検討が必要なため、余裕を持って普及指導員に相談する			

※有用な情報、新たな検討結果で得られた知見などあれば改訂していく